まちの「今」をお届けします

デジタルを活用して地域課題の解決へ

DX 協創プラットフォーム

DX※協創プラットフォームは、市の若手職員、山口東京理科大学の学生、商工会議所職員など若者を中心に計 16 人が集まり、市が抱える地域課題やデジタル・アナログ両面を活用した解決策等について話し合う市民参加型のまちづくりの「場」です。

この話し合いは、昨年の 6 月から月 1 回程度計 7 回にわたり開催。参加者は 3 チームに分かれ、地域課題の掘り起こしから始め、「健康」や「交通」「高齢者の買い物」といった地域課題を選定。関係者へのアンケートの実施や、その回答の分析を行い、有効と思われる解決策を討議してきました。また、話し合いを円滑に行うため、積極的にデジタル機器を活用するなど、参加者のデジタルに対する機運向上のための取組も行ってきました。

1 月 12 日には、最終発表会を市役所で開催。今まで討議してきた内容を 3 チームがプレゼンテーションしました。藤田剛二市長は「選定された地域課題はどれも重要なものであり、解決しないといけない課題。各チームから発表のあった解決案については、今後の市の施策の参考としたい」と講評しました。また、参加者からは「山陽小野田市のまちづくりについて考える機会となった」などの声が聞かれました。

※ DX とは「Digital Transformation（デジタル トランスフォーメーション）」の略で、デジタルの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる、という意味です。

小野田古式消防組保存会によるはしご乗り披露

安心安全なまちづくりに向け決意新たに

令和 5 年消防出初式を開催

1 月 7 日、令和 5 年消防出初式が市民館で開催され、消防職団員や関係者など約 200 人が出席。式典が行われたほか、市長観閲式では、消防職団員約 140 人と消防車両 17 台が並ぶ様子を藤田剛二市長が観閲しました。また、小野田古式消防組保存会による木遣・はしご乗りや、消防団員による鈴割り放水演技も披露されました。

左から㈲三浦製麺三浦玲子代表取締役、ジェラテリアパール SAKURA 梅野裕恵代表、永山純一郎山陽小野田名産品推進協議会会長

地元の逸品 2 商品を新たに認定

山陽小野田名産品認定式

おのだサンパークで 1 月 7 日～ 9 日の 3 日間、「第 14 回やまぐち名産品フェア」を開催しました。初日の 7 日には、「山陽小野田名産品認定式」もあわせて行われ、今回新たに 2 事業者の 2 商品が「山陽小野田名産品」として認定されました。認定された 2 商品については 10 ページで紹介しています。